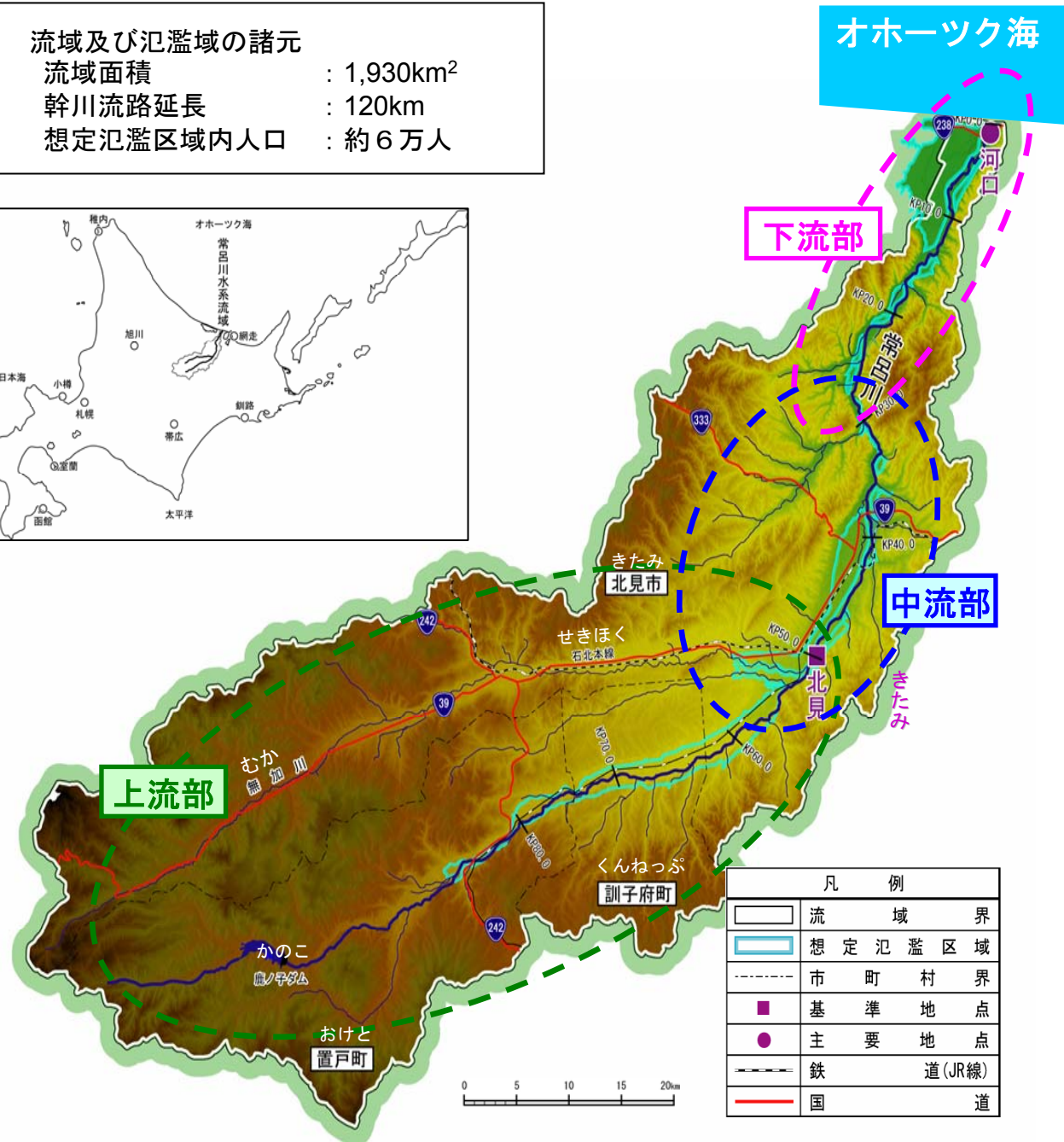


常呂川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

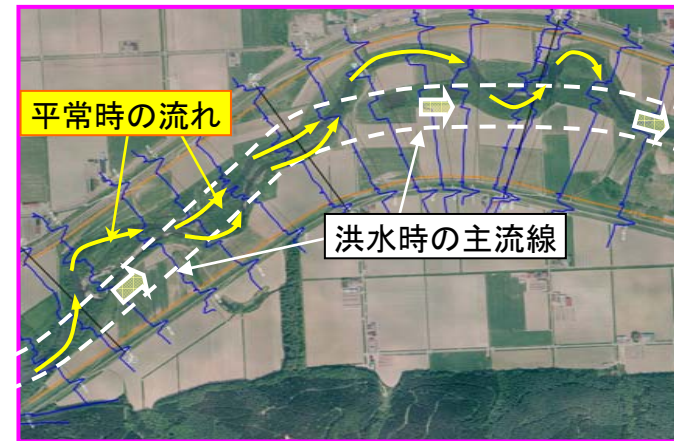
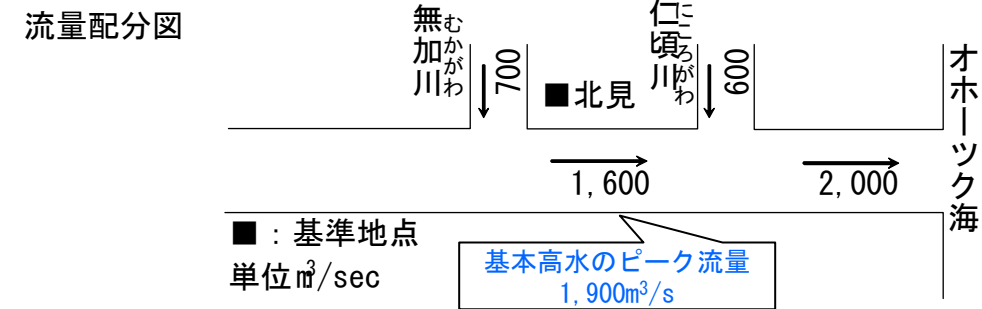
- タマネギ、河口沿岸のホタテの生産量は道内有数。
- 下流部は低水路が大きく蛇行しており、瀬・淵等多様な環境が見られ、魚類等の良好な生息環境。

流域及び氾濫域の諸元
 流域面積 : 1,930km²
 幹川流路延長 : 120km
 想定氾濫区域内人口 : 約6万人



災害の発生の防止又は軽減

- 既定計画の工事实施基本計画の基本高水ピーク流量1,900m³/sについて流量確率 (1/100相当)による検証、既往洪水からの検証の結果を踏まえ、基本方針においても北見地点の基本高水ピーク流量を1,900m³/sと設定。



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存鹿ノ子ダムにより対応。
- 下流部は低水路が大きく蛇行し樹木も範もしており、現状では、洪水流を安全に流すことができる河道とはなっていない区間が存在。
- 河道の平面形及び河岸等の樹木が流水に与える影響を把握し、洪水の流下に効果的な河道掘削。

河川環境の整備と保全

- 魚類等の良好な生息環境となっている大きく蛇行した低水路を保全。
- 良好な自然環境を保全しつつ、多くの人々が親しめる河川空間となるよう取り組む。



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の保護・漁業など9項目の検討により、維持流量を設定し、流入量等を含めて正常流量を北見地点において概ね8m³/sに設定。